

自 己 評 価 表

平成30年度

愛媛県立今治工業高等学校
学校番号 17

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的 国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、公共の福 祉に貢献する人間性豊かで実践的な技術者を養成する。	重点目標	ものづくりから人づくりへ — いい汗をかこう — 足もとをしっかり見つめ、幅広い視野で時の流れを多面的にとらえよう 1 確かな学力の定着と専門的実践力の育成 2 基本的生活習慣の確立と自律心の育成 3 豊かな人間性・社会性の育成 4 望ましい勤労観や職業観の育成 5 安心・安全な学校づくりの推進
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
工業教育	SPH事業、地域産業スペシャリスト育成事業の充実	インターンシップの充実やデュアルシステムの定着と、SPH事業、地域産業スペシャリスト育成事業を活用して地域産業界との連携を図る。	A	2年生でのインターンシップ、マッチングフェア、3年生でのデュアルシステム等において工業各科が積極的に実施した。	インターンシップやデュアルシステムを通して、早い時期からの専門的職業人の育成を図る。
	ものづくり教育の推進	各種競技大会に積極的に参加し、外部支援団体・企業・技能士等との連携を図り生徒・教員の技能技術の向上に努める。	A	工業各科で様々な競技大会に挑戦し、幅広い分野において成果が出た。また、生徒・教員の技術も向上した。	企業・技能士とのさらなる連携を深め、指導体制の充実を図る。
		愛媛のものづくり企業「すご技」企業を訪問し、工業科教員のスキルアップを図るとともに、専門教育を充実させる。	B	愛媛のものづくり企業「すご技」企業を訪問することで、工業科教員のスキルアップを図ることができ、専門教育を充実させることができた。	実施方法や実施時期などを検討し、今後の充実を図る。
	資格・検定取得の奨励	検定試験に積極的に挑戦させるなど、資格取得指導の充実を図る。	B	工業各科において、授業や放課後・休日の充実した補習によって、検定試験への取組の成果が表れている。	検定ごとに指導方法を検討し、さらに効率的な指導を目指す。
学習指導	基礎的・基本的な学力の定着	生徒の実態を把握し、基礎学力の定着と自主的な自己学習力の育成を図る。	B	学習意欲に欠けた基礎学力の定着がみられない生徒の指導を、根気強く継続的に実施することにより、学力向上が見られる。	各科の取組だけでなく、学校全体として共通の認識のもと、時間(放課後等)の有効活用を検討し学力の定着に努める。
	教科指導の充実	校内外の各種研修会に積極的に参加し、教員の実践的な指導力の向上を図る。	B	研修の機会や参加者の数が昨年度より増えたが、内容面ではまだまだ検討の余地がある。	内容の精選を行い、慣例にならないように実施する。
		生徒による授業評価を実施し、授業内容と指導方法の改善を図る。	A	評価内容を変更し、全教科、全校生徒を対象に実施した。グラフ化により指導等の改善につながっている。また、生徒自身、学習方法等について見直し、改善点が見られる。	評価の結果をもとに授業の方法など、改善点を検討する。生徒自身が振り返ることにより反省だけでなく、今後の取組の参考にさせる。
	図書室及び図書利用の促進	図書室利用の啓発に努め、読書会や集団読書の充実を図る。(生徒一人当たり年間貸出冊数3冊以上)	C	県立図書館からの貸出も継続し、図書の充実に努めた。読書会では活発な意見交換がなされたが、貸出冊数は目標を達成できなかった。(1人当たりの平貸出冊数2.8冊)	引き続き図書委員を中心に全校生徒へ呼びかけ、図書室利用の促進を図る。
特別活動	生徒会活動の充実	生徒会活動(運動会・文化祭・クラスマッチ等)への積極的参加と自主的な運営に努める。	A	生徒会を中心に自主的、積極的な運営ができた。また、新生徒会役員も更に一生懸命に取り組んでいる。	新生徒会役員を中心に、企画運営を行っていききたい。生徒会役員にも主体性が出てきているので、さらに伸ばしていきたい。
	部活動の活性化	部活動加入率90%以上、県総体140名以上、四国総体4競技以上を目指す。	B	全国大会での優勝、四国大会での優勝などの成績を残し、活性化している。しかし、部活動加入率の達成はできたが、県総体、四国大会で若干名目標に到達することができなかった。	部活動加入率をもちろんのこと、競技成績の面においても、昨年度と同等以上の成績を収めることができるように、生徒、教員が一丸となって取り組む必要があると思われる。
	ボランティア活動の推進	各種ボランティア活動への積極的な参加を促し、奉仕の心の育成を図る。	A	インターアクト部、生徒会役員を中心に積極的に取り組むことができた。	昨年度と同等の活動を心掛けたい。生徒からの積極的な呼びかけを期待したい。

※ 評価は5段階 (A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった) とする。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
生徒指導	問題行動の防止	教職員の共通理解をこれまで以上に図るとともに、保護者との連携も強化し、問題行動の未然防止に努める。	C	特別指導の件数そのものは例年と大差なかったが、一度特別指導をした生徒が再度問題行動をするなど、従来の指導では不十分なケースが見られた。	教職員間の共通理解を徹底し、生徒課や担任だけが生徒指導をするのではなく、全教職員で指導する体制を強化する。
	安全教育の推進	ヘルメットの正しい着用を定着させ、登下校中の交通安全意識およびさまざまな場面における「命を守る」意識の高揚を図る。	B	大きな交通事故は発生せず、また事故が発生してもその場での適切な対応をする生徒が増えた。一方で自転車運転しながらのスマホ操作や並進等についての苦情はいただいた。	交通社会の一員としての「マナー」の重要性を、機会ごとに啓発する。
	基本的生活習慣の確立	生徒の進路実現のために、挨拶、身だしなみ、時間及び健康の管理に関する指導を継続して行い、規範意識の高揚と基本的生活習慣の確立を図る。	B	身だしなみについては概ね良好な状態であった。特に冬場になってから遅刻する生徒が増えた。	引き続き基本的生活習慣の確立が、自身の進路実現に重要なものであることを理解させ、粘り強く指導する。
教育相談	充実した学校生活の支援	ホームルーム担任や養護教諭、科、専門機関との連携を密にし、生徒の悩みの克服を支援する。	B	関係教員の温かいカウンセリングにより、落ち着いた生徒が多かった。	病弱生徒や不登校生徒の支援について、専門機関との連携の在り方を今後も検討する。
		特別な配慮を要する生徒の実態把握に努め、学校生活を支援する。	B	職員会で生徒の実態周知に努めた。特別支援委員会で協議し、適切な対応をすることができた。	教職員に過度の負担がかからぬように継続的な支援方法を検討する。
人権・同和教育	現職教育の充実	生徒の自己実現に向け、14項目の共通理解・共通実践を図る。校内外の研修に積極的に参加し、教師自らが人権感覚を磨き、あらゆる教育活動において生徒の人権意識を高めようとする教員集団作りを目指す。	B	生徒と共に育つ教員の人権意識の変容に向けて、あらゆる教育活動において取り組んだ。教員自らが現実から学ぼうとする強い気持ちをもてるために、教員同士の教材提供を含めて支援できた。	教員一人一人の人権・同和教育に関する課題に対して、取り組む意識の高まりを支援できるように、学校全体を取り込める体制づくりを見直し、更なる現職教育の充実を図りたい。
	望ましい集団活動の推進	人権委員会を活性化し、人権集会を充実させ、差別を許さない集団作りを目指す。市内各校との交流学習を通じて、学んだことを生徒全体にフィードバックする。	A	全校生徒へのヘイトスピーチに関するアンケートを人権委員が集計したり、全校生徒の言葉を掲示する活動を行うことや、市内各校との交流学習会の準備や運営に全員が関わることができ、人権委員の人権問題への意識が更に強くなったと感じた。	人権委員が主体的活動できるよう、教育環境づくりを整備し、学校内外に向けてより強い発信型の集団となるよう外部機関とのつながりを強化し、体験を増やしていきたい。
進路指導	進路意識の高揚	進路希望調査や進路相談等を通して、より具体的に進路に対する意識を高めさせる。他課や外部との交流を深め、生徒の職業感や勤労観を育成する。	B	具体的な進路希望調査を2年の3学期に1回、3年の1学期に2回実施することにより、意識の高揚も進路希望の把握に努めた。また、昨年度と同様に企業説明会、進路ガイダンス、マッチングフェアを積極的に行い、特に進路ガイダンスでは、体験型学習の形式での実施した。	生徒だけでなく、担任や工業各科への進路情報提供を積極的に努め、全教職員で進路指導に取り組む体制づくりを考える。また、授業、学校行事、各種検査、ホームルーム活動を通して、早い時期から自分の適性を掌握し、将来の進路についてより具体的に考えさせる。
	就職・進学指導の充実	生徒一人一人の適性や能力の把握に努め、キャリア教育の充実を図る。学校紹介による就職内定率100%、進学希望達成率100%を目指す。	A	事業所訪問を積極的に行い、その結果を生徒に反映させるとともに応募前職場見学に主体的に参加させた。工場見学、インターンシップなどの取組からも職業観・勤労観の育成ができています。学校紹介の就職率および進学の決定率ともに100%を年内に達成した。また、卒業生に講師として来てもらい、3年生と共に学ばせた。	挨拶やマナーなど学校生活の中で学ばせること、基礎学力の向上、コミュニケーション能力の育成に努める。進学希望者には、1・2年次からオープンキャンパスなどに参加させ、意識の高揚を図る。
情報管理	ICTの活用及び情報モラル教育の充実	授業における各教科の有効なICT活用方法や情報モラルに関する効果的な指導方法を研究する。	B	専門教科などで情報モラル教育に関する指導を行っているが、積極的に取組むことができなかった。	更なるICT機器の積極的な活用に関する啓発活動を行う。
	セキュリティ及びデータ管理の徹底	新しい情報管理システムの導入に伴い、使用方法、個人情報漏えい防止対策、セキュリティに関する啓発を強化する。	B	機器環境の更新などもあり、セキュリティに対して意識を高めたが、十分に徹底できていない面もあった。	新しい情報管理システムに対応できるスキルの向上とともに、個々の意識を高める活動を積極的に行う。
保健厚生	健康管理能力の育成	教室の環境衛生検査の基準の変更に伴い、衛生環境の管理を保健委員会活動として位置づけ、体と心の管理能力に取り組む意識を高めていく。	B	教室の温湿度検査・換気等を保健委員会活動として実施し、衛生環境の管理・向上に役立った。	衛生環境の管理について委員会活動を継続するとともにその結果について報告し、生徒全員が体と心の管理能力の育成に取り組めるようにする。
	防災意識の高揚	防災学習、避難訓練の内容を見直し、防災意識の昂揚に努めるとともに、安全点検を徹底して、施設面でも危機管理を行う。	B	愛媛県が実施するシェイクアウト訓練に合わせて各種防災訓練を実施することで、生徒への関心を高めた。また今治市のハザードマップを積極的に紹介し、家庭の防災意識向上を図った。	生徒の防災への関心をより高めるために、視覚的教材の活用ができる機会を検討する。
渉外広報	P T A 活動の活性化	生徒数の減と共に保護者の数も減っているが、学校行事やPTA活動を現在の活気あるものを今後も維持していく。	B	PTA球技大会や今工祭では、例年通り活気あるものになっている。PTA総会では昼食試食会を行っていることもあり、昨年度に比べ若干増加した。PTA研修旅行も本年度は実施できた。	PTA会長をはじめとした役員のリターンシップによって活気あるものになっており、役員どうしのよりよい関係を維持する。
		学校新聞や毎月のPTA通信の内容が形骸化しないよう、新しいものを導入する。	B	今工新聞・きぼう（年2回）では生徒作品や生徒の活躍を取り入れたり、部活動で活躍した生徒の声を取り入れることができた。	毎月のPTA通信はHPに掲載しているが、それだけでなく紙媒体での情報提供も継続して行う。

	きめ細かな情報提供	体験入学や出前講座、ものづくり教室など、さまざまな活動を通して本校の魅力を外部に発信し、志願者数増加へつなげる。	A	SPH最終年次研究成果報告会やほかの事業において更に地域と連携して取り組んだり、小・中学生対象のイベントに参加したりするなどして、積極的に外部発信を行った。	今後も継続した研究の様子など、本校の取組を更に積極的に地域に発信し、魅力を感じてもらえるような方策を考える。
--	-----------	--	---	--	--

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。